

令和4年度学校評価（年度末評価）

<p>本年度の 重点目標</p> <p>(1) カリキュラム・マネジメント&lt;授業力の向上&gt; ア 学びの連続性を意識した教育活動の実現を図る。 イ 3観点を意識した教育活動を展開する。～指導と評価の一体化を目指して～</p> <p>(2) スクール・マネジメント&lt;学校力の向上&gt; ア ゆとりある学校づくりを実現する。（業務のスリム化と働き方改革） イ 児童生徒が安心して学べる学校づくりを推進する。</p> <p>(3) スタッフ・マネジメント&lt;教師力の向上&gt; ア ICT活用できる支援技術の習得を図る。 イ PDCAに基づく授業改善を図る力(アセスメント力、実践力、評価力)を獲得する。</p>					
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題	自己評価	
総務部	授業力の向上	・保護者との連携による教育活動の充実を図る (1)ア	・家庭との連携が必要な教育活動とPTAの行事との連携を推進する。	・関連する分掌主任と連携しながら、講演会や研修会などのPTA行事を実施した。研修会等の内容をデータ閲覧や資料回覧をすることで、職員に周知でき、教育活動の充実が図れた。	B
	学校力の向上	・ゆとりある学校づくりを実現する (2)ア	・内規集の変更の手続きの合理化を図る。 ・学校要覧の内容を精選する。	・内規集は各分掌にて内容を精選し、情報図書部と連携してデータを検索できるようにした。今後、活用しながら使い勝手を改善していく。 ・学校要覧は内容を精査し、見開きA3のデザインに変更した。	A
教務部	授業の質の向上	・学びの連続性を意識した教育活動の実現を図る(1)ア	・評価の3観点を意識して作成した年間指導計画を基に、学びの連続性を考慮した学習内容や目標設定、評価方法について分析・検討をする。	・「指導内容段階表」や「観点別学習目標一覧表」「単元(題材)配列シート」を用いて話し合いを進め、各部における系統的な目標設定や単元(題材)の配列、学習内容を見直し、まとめることができた。来年度の年間指導計画の作成に生かしていく。	B
	学校力の向上	・ゆとりある学校づくりを実現する。（業務のスリム化と働き方改革） (2)ア	・諸帳簿作成の手引きの効率的な活用を目指して改善する。 ・指導要録への個別の指導計画添付を計画的に進め、職員の負担軽減につなげる。	・諸帳簿作成の手引きを精選し、データの保管場所を分かりやすくしたり、新転任者に資料配付したりして周知した。また、指導要録への個別の指導計画添付を小、中学部及び高等部1年生で実施し、職員の負担軽減につなげることができた。高等部については年次進行で実施していく。課題が出てきた際にはその都度検討していきたい。	B
生徒指導部	学校力の向上	・危機管理体制の充実(2)イ	・各種訓練の方法を見直し、より効率的・効果的な訓練を実施し、危機管理体制の充実を図る。	・引渡し訓練では、年度初めに保護者に引渡しを行う場合のメール訓練を実施した。職員のための引渡し訓練は悪天候のため資料を使った説明に変更した。シェイクアウト訓練は回数を増やし、毎月地震に対する備えを確認できた。各訓練の反省を基に学校安全マニュアルの見直しをしていく。	B
	学校力の向上	・いじめやインターネット上のトラブルの未然防止 (2)イ	・いじめ防止基本方針を全職員に配布し、組織的な対応について周知・徹底する。生活アンケートや日頃の観察により、いじめの兆候を早期発見・早期対応し、児童生徒をチームで支援する。 ・情報モラル教育年間計画に則した計画的な指導や家庭との連携により、SNS等の利用によるいじめやトラブルの未然防止に努める。	・悩みを抱えた児童生徒への対応について、主任者会や部会、支援会議等で情報共有を積極的に行うことができた。スクールカウンセラーの活用に向けて、引き続き調整を図っていく。 ・外部講師によるインターネット安心マナー講座を高等部対象生徒向けに3回、保護者向けに1回実施し、注意喚起や正しい利用について指導・啓発することができた。引き続き、トラブルの未然防止に努めていきたい。	B

進路指導部	学校力及び教師力の向上	・関係諸機関との連携の充実 (1)ア	・地域において体験できる職種や実習先を増やす。	・愛知中小企業同友会と連携することで地域の製造業や青果店舗を実習先として紹介してもらい、製造業と小売業種で実習を進めることができた。	B
	学校力の向上	・保護者、地域、社会に開かれた学校づくりをすすめるための情報発信 (2)ア	・進路講話等で保護者のニーズにあった進路に関する情報を提供する。	・小中学部の保護者が求めている情報をもとに進路講話の計画を進め、保護者のニーズに合った講師を依頼して、動画配信で幅広い保護者を対象に実施することができた。	A
保健体育部	授業力の向上	・食育の取組の推進と保護者との連携 (1)ア	・食育に関する諸問題について保護者と連携して取り組む。	・保護者対象で保健アンケートを行い、食育の取組に生かしたり、新たな課題を把握したりすることができた。 ・PTAの行事と連携して「食育講座」を行った。給食の様子や食育の取組を保護者に伝え、課題等を共有することができた。	B
	学校力の向上	・児童生徒が安心して学べる学校づくりの推進 (2)イ	・服薬による疾病管理が必要な児童生徒に対する災害発生時の体制づくりを行う。	・災害発生時の服薬管理の体制について学校保健委員会で検討し、必要な児童生徒については薬の説明書を携帯するという方向性を決めることができた。今後、実施に向けて準備していく。	B
研修・研究部	学校力の向上	・ゆとりある学校づくりを実現する(業務のスリム化と働き方改革) (2)ア	・研修・研究部の統合においてプラス効果が期待されることと課題を洗い出し、業務のスリム化を図る。	・研修対象者自身で研修申込や提出物起案等を行うことが増えたため、業務の一部分では効率化を図ることができた。 ・今年度の反省を踏まえ、引き継ぎ資料の加筆、修正を行った。	B
	授業力の向上	・3観点を意識した教育活動を展開する。～指導と評価の一体化を目指して～ (1)ア、イ	・校内研究を年間5回設け、各部や学年、各教科等のグループなど、複数の視点で年間指導計画等について話し合う。	・各部で年間指導計画を基に学びの連続性を考慮して学習内容や評価方法を検討し、それぞれの部の形でまとめることができた。今後作成した資料を活用して、授業等に生かしていけるかを検証していく。	B
情報図書部	教師力の向上	・ICT活用できる支援技術の習得を図る (3)ア	・ICT機器の整備や購入計画をすすめ、授業等で使いやすく有効な環境作りを行う。 ・タブレットPCなどのICT機器を利用した効果的な活用方法を提案する。	・ICT機器の貸出簿をExcelで作成し、サーバー上で貸し出しの手続きを行いやすくした。ICT支援員と連携し、Microsoft Teamsの研修を行った上で職員チームを作成した。次年度、情報共有や業務効率化に活用できるように進めていく。	B
	学校力の向上	・児童生徒が安心して学べる学校づくりを推進する (2)イ	・図書室の利用の促進を行う。 ・読み聞かせ会の実施方法を検討し、計画する。	・蔵書点検の際に損傷の激しい本の廃棄を進め、一部シリーズ本が分かりやすくなるよう整理をした。今後も整理を続けていく。読み聞かせ会では会場の設営や手指消毒など基本的な感染症対策を行った上で実施することができた。	B
教育支援・自立活動部	学校力の向上	・児童・生徒を取り巻くサポート体制作りの推進 (2)イ (3)イ	・ケース会や教育支援委員会のもち方、進め方について検討し実践する。 ・関係機関との連携が図れるように情報を収集し、職員に周知する。	・「問題解決型ケース会議」の手法を教育支援部職員が実践し、他の職員にも伝えるようにしたが、効率的な会議の運営に問題が残った。相談支援員との連絡会や担任や保護者との懇談会が行えるように連絡、調整をした。次年度も継続して行いたい。	B
	教師力の向上	・自立活動における指導力の向上 (3)イ	・アセスメントや指導法に関する研修を計画的に実施する。	・アセスメント活用、指導技法、事例検討などの研修会を実施した。「実践的でとても勉強になった」「夏季研修を継続してほしい」などの声があがり、教師の指導力磨きの一助となった。来年度も、職員のニーズに基づいた研修を継続する。	A
学校関係者評価を実施する 主な項目			・授業力の向上    ・学校力の向上    ・教師力の向上		